

踏 み 跡 < My mountains >

丹沢	四十八瀬川右股遊行	No.073
----	-----------	--------

今年初めての冬山計画も生まれ、なかなか充実した年になりつつある。少し沢登りでもやって、岩の基本練習でもしようと思い、一人で丹沢の沢に入って見ることにした。

勘七の沢とも呼ばれるこの沢、いずれの名前をとってもそこはかとなく味わいのある名前である。

昭和41年10月30日(快晴)

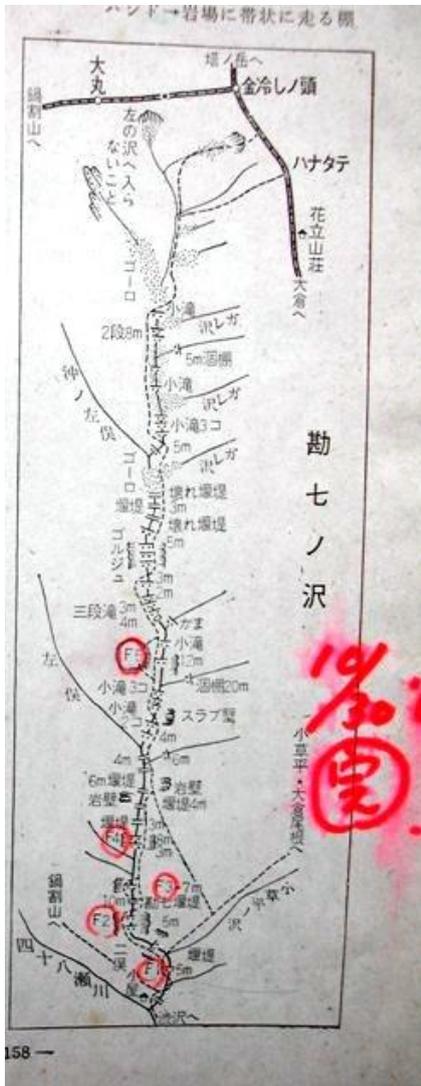
南武線を使って登戸経由で行ったような気がする。渋沢7時35分着。バスで大倉に付いたのは8時10分。高校三年の頃、鍋割山稜を歩いた時のことを思い出しながら勘七の出合まで来てみたが、昔はなかった林道が今ではかなり奥まで通っており、昔と景観が変わってしまって沢の入口がわかりにくい。

勘七小屋9時20分、勘七の沢出合いでわらじに履き替えて遊行開始。

春に使ったお古のワラジなので、F4まで来たら無残にも擦り切れてしまい再び靴に履き替え、さらに上へ。F5では何人かの人が見ながら研究し、さらにガイドブックと実際に目の前にある滝とを見比べながら数回登ってみた。「中段の小バンドを抜けるのが面倒だ」というようなアドバイスも聞いてきたが、さしたる苦勞もなく登ることができた。

12時45分、ガレで昼食と大休止。13時20分に出発したが、前のパーティの落石が多く恐ろしいので少し間を空けることにした。

13時45分、大倉尾根に出たところで再び休憩。稜線は秋の落ち着いた風景とは裏腹に、まだ夏のような賑



わい。枯れ草の中に身を沈めてしばし軽やかな寝息を立ててみる。丹沢でも大倉尾根や表尾根は便利なもので、例えば花立の頭から大倉に下り小田急に乗って家に着くまで二時間半あれば充分。そんな安心感からか、南面の沢登りと大倉尾根での昼寝は定番メニューである。おまけに気ままな一人旅だから、尚のこと。14時45分出発。大倉15時45分、ちょうどバスが止まっていたので、そのまま飛び乗り渋沢駅に16時に到着。

上り電車は16時02分発で、これまたタイミング良く待ち時間なし。こういうこともたまにはあるものだ。

10月も終わりになって沢の水は一層冷たさを増しているが、まだまだ沢登りはできそうだ。

次は水無川本谷へ行ってみよう。

以上

(修正・更新:2023年11月)